

# IBM Cloud Automation ManagerとIBM Cloud Privateでマルチ・クラウドを接続

マルチ・クラウド環境をカスタマイズ、統制、オーケストレーション



## ハイライト

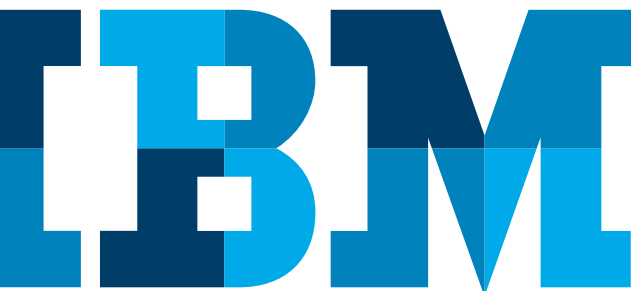
- マルチ・クラウドにまたがるインフラストラクチャーとアプリケーション・スタックのデリバリーを自動化、標準化
- 単純なGUIで複雑なクラウド・サービスを構成、オーケストレーション(配備/設定/管理の自動化)、デリバリーを実現
- 迅速なスタートを切るために、ベストプラクティスに基づいた事前構築済のエンタープライズ・コンテンツのライブラリを提供

## マルチ・クラウド環境を管理

最新のレポートによると、現在の企業の85%はマルチ・クラウド戦略に取り組み、平均で8つの異なるクラウドを利用しています(\*1)。無秩序に広がったクラウドにより、ITマネージャーは、クラウド基盤やサービス提供を標準化し、効果的に監視、管理していくことが難しくなっています。開発者は、応用の効かないスキルを必要とするベンダー固有ツールにロックインされており、さまざまなクラウド上でアプリケーションを開発、実行できる単一のプラットフォームを必要としています。ITマネージャーは、自身の企業向けに、ポリシー・ベースで管理されるIT-as-a-Service (ITaaS) モデルを作りながら、IT運用を管理、提供しなければなりません。開発者もITマネージャーもサービスの自動化によって、こうしたタスクを効率的に実施していくことが可能です。

IBM®のCloud PrivateとCloud Automation Managerは、企業内の組織をまたがって、複数ITスタッフがアプリケーションやその基盤を迅速に構築、提供するための選択肢と柔軟性を提供します。これにより優れた一貫性、俊敏性、コントロールが確保されます。

- IBM Cloud Privateにより、開発者は統合されたDevOps ツール・チェーンを利用して、Dockerコンテナ化されたアプリケーションのデリバリーに最適化された軽量開発環境で、迅速に取組みを開始することができます。
- Cloud Automation Managerにより、ITインフラストラクチャー・マネージャーは、複数のクラウドにわたって一貫した運用体験で、クラウド基盤と従来のVM型アプリケーション環境を構築・保守できます。
- Cloud Automation Managerサービス・コンポーザーにより、ITサービス・マネージャーは、DevOpsツール・チェーンからサービスとして利用される、もしくはクラウド・サービス・カタログの中で提供される複雑なクラウド・サービスをグラフィック形式で構成できます。
- 人気のあるオープン・ソース・ミドルウェアとIBMミドルウェア向けの事前構築済の自動化コンテンツの大規模なカタログが統合され、拡大を続けています。これらは、ベストプラクティスに基づいて構成されているので、開発者とITアーキテクトはすぐに生産性を高めることができます。



## IBMクラウド ソリューション概要

IBM Cloud Automation ManagerとIBM Cloud Privateは、開発者にやさしい、本番稼働対応のクラウド管理ソリューションです。お客様のハイブリッドITの柔軟性を高め、クラウド基盤とアプリケーション・サービスのセルフサービス化でデリバリー・スピードを向上させます。さらに、IBM Cloud Automation ManagerとIBM Cloud Privateは効果的で、強制可能なガバナンスとインテリジェントなインサイトによる管理コントロールを支援する機能があるので、安全でコンプライアンスに遵守した環境作りを促進するようデザインされています。

### 可視性と管理をシンプルにしなが、革新を加速

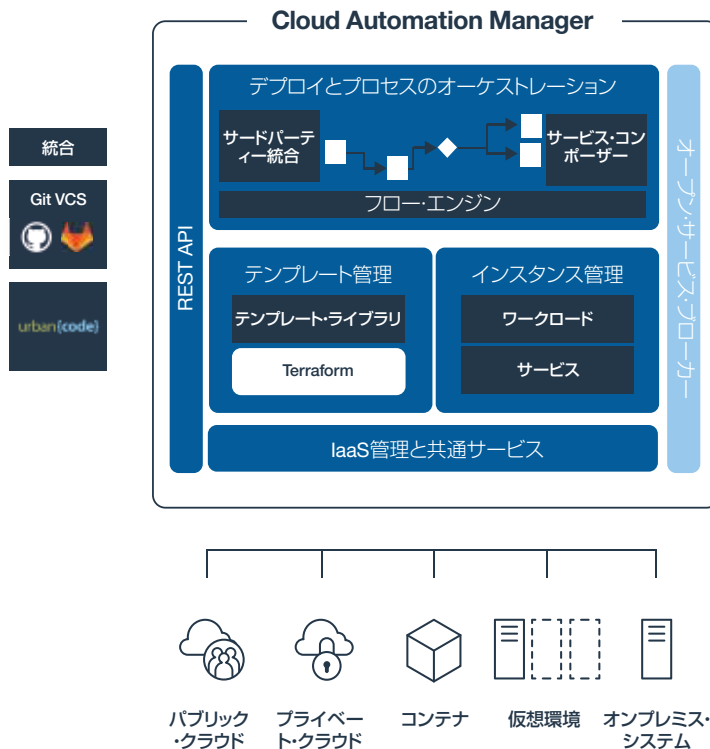
IBM Cloud Privateは既存の資産、専門知識、プロセスを開放して革新を推進し、ビジネス要求に合った機動力の高いIT消費モデルを可能にします。KubernetesとCloud Foundryを基盤としたコンテナを活用して、企業は戦略的な基盤としてのコンテナ・テクノロジーの適用を加速していくことができます。これにより、アプリケーション開発者の生産性が高まり、チームをより小さくしていくことで速度と機動力を高めていくことができます。

環境がますます複雑になっても、IBM Cloud Automation Managerを利用して、運用チームはハイブリッド環境を何かに依存することなく容易に管理できます。単一のダッシュボードから、マルチ・クラウドのアプリケーションやサービス、接続APIやデータを管理することができます。また、モニタリングや、ロギング、イベントの管理もできます — 高品質のアプリケーション開発とビジネスの価値創出を加速するための基盤です。

### 一貫性のある選択肢:複数のクラウドにおける標準化されたクラウド自動化

IBM Cloud Automation Managerは、特定のクラウドに依存しない、クラウド基盤と従来型VMベースのアプリケーション環境を展開・管理するソリューションです。パブリック・クラウド、プライベート・クラウドの双方をサポートします (図1参照)。ここではIBM Cloud、Amazon EC2、Microsoft Azure、OpenStack、VMware、PowerVCが含まれます。

この柔軟性により、IT管理者は自社のワークロードに適したクラウドを自由に選べます。そしてCloud Automation Managerを利用して、GUIまたはREST API経由でアクセスする一貫した簡潔なユーザー体験で、それらのワークロードの展開、運用ができます。



- **自動化と標準化:** 多くのクラウドで一貫したインフラストラクチャーとアプリケーション・スタックのデリバリーを自動化、標準化
- **構成とオーケストレーション:** 複雑な環境を構成、オーケストレーションを行い、DevOpsツール・チェーンや公開されたセルフサービスのカタログからアクセスし使いやすいようクラウド・サービス化
- **ワークロード、サービス・インスタンスの管理:** 複数のクラウドにまたがり、それぞれのライフサイクルを管理
- **オープン・テクノロジーの組み込み**  
ベンダー・ロックインを回避

## より使いやすく、より管理しやすく

Cloud Automation ManagerはITサービス・マネージャーが、インフラストラクチャー、アプリケーション環境、クラウド・サービスを簡単にエンドユーザーへ提供できるように設計されたグラフィック形式のサービス構築ツールも提供します。ITサービス・マネージャーは、グラフィック画面でドラッグ・アンド・ドロップにより複数のアクティビティをサービス・オブジェクトに結合し、セルフサービスのカタログに公開できます。DevOpsツール・チェーン経由で使用することもできます。これらのアクティビティにはテンプレートによる基盤のプロビジョニング、REST APIの呼出し、電子メール通知などを、事前設定した構成変数とともに含めることができます。

Cloud Automation Managerは、Infrastructure as Code 設計スタイルをサポートしています。つまりクラウドの自動化のための成果物はバージョン管理システムに保存され、アプリケーション・コードのように管理されます。IT管理者は、クラウドをInfrastructure as Codeで管理することによって、DevOpsの実践と共に、監査に対応した基盤とアプリケーション環境、クラウド・サービス提供の標準化とプロセスの確立ができます。

## オープン・テクノロジーで実装、事前定義済の自動化コンテンツおよびコミュニティー、統合

Cloud Automation Managerはクラウドに依存しない、オープン・ソース・ベースのマルチ・クラウド・インフラストラクチャー管理機能であるTerraformを活用しています。Terraformには多数の開発者とユーザー・コミュニティーがあり、その数は増え続けています。IBM および、Amazon、Microsoft、Googleなど多くのクラウド・ベンダーに広く支持されています。

Cloud Automation Managerには、広く利用されている 構成管理ソリューションのChefが統合されており、アドバンスド・コンテンツ・ランタイムで利用されています。一方で、Cloud Automation ManagerはAnsible、Puppet、SaltStackなどの構成管理ソリューションにも対応しています。

Cloud Automation Managerには以下を支援するようデザインされた事前構成済の機能が含まれています：

- ベアメタル・サーバー、仮想マシン、クラウド・ネイティブ・サービス、Dockerコンテナ、複雑なアプリケーション・スタックなどの自動展開
- Terraformによる、IBM Cloud、VMware、AWS EC2、Azure、PowerVC、OpenStackへのワークロードのプロビジョニング
- 一貫性があり利用しやすく理解しやすいユーザー・インターフェイスによる生産性向上
- 開発者にやさしい、スクリプト化できるREST APIの利用

さらに、IBM Cloud Brokerage、IBM UrbanCode Deploy、IBM Application Performance Management など既存ツールを利用してIBM Cloud Automation Manager の機能を拡張し、既存データ・センターと統合することが可能です。

## IBM Cloud Privateを選ぶ理由

豊富なデータに恵まれた世界で、課題を解決し、ビジネス・チャンスを獲得するために構築されたIBM Cloud Private が提供できるのは：

### ビジネス変革

- 新しいマイクロサービス・ベースのアプリケーションを容易に構築、展開、管理 — ダイナミックなスケーラビリティと要求の変化を管理
- コード・リポジトリ(ソース・コード管理)、デプロイ、テスト自動化、本番リリースまでカバーする、新しく統合されたIBMとオープン・ソースのDevOpsのツールとサービス
- IBM Public Cloudとのシームレスな仮想的統合 — コグニティブ/AI、ブロックチェーン、IoTなどの革新的テクノロジーにセキュリティを担保した上でアクセス、統合するためにデザインされています

### 統合

- プラットフォームやその他のサービスに対する容易なアクセスにより、開発者はクラウド内またはクラウドをまたがって環境を容易に統合できます
- サービス・カタログと統合ツールでオンプレミス/オフプレミスでの開発者を支援

## コンプライアンスと管理を強化

- 規模を問わず、マイクロサービスをモニターし、セキュリティーを守り、運用できるよう設計された機能
- 法令と業界標準に対応する充実したセキュリティー機能による企業データ、コンプライアンスの管理
- データとアプリケーションの管理、バックアップ、リカバリー

## 投資の保護

- 次世代クラウド対応ソフトウェアを利用して、リスクのあるアプリケーション変更を必要とさせない、もしくは先延ばしできる能力
- 既存の伝統的アプリケーションを新アプリケーションと統合しながらモダナイズ(近代化)する機能
- 開発者や運用チームが自信を持ってアプリケーションを新バージョンやクラウドに移行できるようにするソフトウェア、サービスのカタログ

## 詳細情報

IBM Cloud Automation Managerの詳細については、日本 IBM の営業担当または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。

[ibm.biz/ibm-cloud-private-jp](http://ibm.biz/ibm-cloud-private-jp)



© Copyright IBM Corporation 2018

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Produced in Japan

February 2018

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

本資料の情報は最初の発行日の時点で最新であり、予告なしに変更される場合があります。すべてのサービスが IBM の操業国すべてにおいて提供されるとは限りません。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回する場合があります。これらは目標および目的を提示するためにのみ使用しています。

IBM 製品とプログラムと他社製品、プログラムとの併用運用またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本資料の情報は「現状のまま」で提供され、明示的にも黙示的にも、商品性の保証、特定目的への適合性の明示的保証、違反行為がないことを含む、いかなる保証を行うものでもありません。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は、法律ならびに該当する規制を順守する責任を負います。IBM は法的助言をすることはなく、IBM のサービスまたは製品によって、お客様が法律または規制を確実に順守できることを表明し保証するものではありません。

グッド・セキュリティ・プラクティス宣言:ITシステム・セキュリティには企業内外からの不適切なアクセスの防止、検出、対応によるシステムと情報の保護が関連しています。不適切なアクセスは情報の変更、廃棄、不適切、誤用につながり、他社への攻撃などシステムの損傷、誤用が起きる可能性があります。完全にセキュリティが守られているITシステム、製品があると考えるはいけませんし、不適切な利用、アクセスを完全に防げる単一の製品、サービス、手段もありません。IBMのシステム、製品、サービスは適法な、包括的セキュリティ手段の一部となるよう設計されていますが、これには追加の運用手順が必要で、効果を最大限に上げるためには他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBMはシステム、製品、サービスが他者の悪意ある行為、ないしは不法行為から損害を受けないことを保証いたしません。また貴社が損害を受けないことも保証いたしません。

1 Forbes Tech Magazine: [forbes.com/sites/centurylink/2017/08/11/how-to-soar-with-your-multicloud-strategy/#44ddb5763e75](http://forbes.com/sites/centurylink/2017/08/11/how-to-soar-with-your-multicloud-strategy/#44ddb5763e75)



Please Recycle